

# 無災害の職場をめざして

下呂営林署 焼石担当区 基幹作業職員 ○齋藤道雄

焼石担当区全員

## 1. はじめに

焼石担当区においては、昭和50年1月28日以降17年間44万時間にわたり無災害を継続することができました。これは、各自の安全に対する心掛けと全員の連携による安全活動の取り組みによるものと思っています。今までの現場で実施してきた安全活動を振り返り今後の安全活動への参考になればと思います。

## 2. 安全活動の内容

無災害継続のポイント

第1に「職場の和」づくりです。

私たちの職場では、明るい健康的な職場作りには「職場の和」が、もっとも大切だと思い、朝ミニバスに乗ったら「全員が家族である」との気持ちになって、家族的な雰囲気のある明るい職場づくりに心掛けてきました。

TBMは班長を中心に、全員が参加し和やかな雰囲気の中で、本日の作業段取り、安全について話を言い、体調のチェックも行っています。

班の中に、「職場の和」が出来たことにより、全員が何事についても遠慮せず話し合える職場をつくることができ、各人の「思いやり」と「助け合う」気持ちが高まり、連携が強化されました。その結果、安全活動に積極的に取り組むことができました。(図-1)

第2に「作業段取りの充実」です。

私達の職場では、作業計画に基づき、作業現地を十分把握したうえで、作業現地に最も適した作業手順、要員配置、安全対策を検討し、無理、無駄のない効率的な作業を行っています。(図-2)

安全対策をたてるには、まず、山見を行い危険因子を洗いだし、対策を立てます。5000分の1の基本図に、危険区域、危険因子と安全対策を記入し、休憩小屋に掲示し全員が確認し、安全作業に役立てています。(図-3)

また、私たちの班では、毎日危険予知活動を行っています。TBMにおいて、当日の作業内容、現地の状況等から危険予知を行い、安全対策を立て、周知徹底を図っています。私達の職場は、

急傾斜地や、気象に左右され易い作業環境の中で、瞬時に危険を予知し対策をたてなくてはならないことが多くあります。日頃の訓練により、危険予知能力が高まり、危険予知活動が定着してきたことは、安全を確保するうえで大きな効果を挙げています。

第3に「安全意識の高揚」です。

常に安全意識を持ち、事業実行にあたるのが安全確保には重要なことですが、長い期間には、マンネリ化することがあります。私達は、安全意識を持ち続け高めるために、毎日のTBM、毎月の安全懇談会、各災害防止強化旬間、0災月間等への積極的な取り組みや、行事等に参加する中で安全意識の持続と向上を図っています。

作業前にタッチアンドコールを行い、その日の安全作業を確認し、また、唐楯や鎌の柄に、握る位置のはみだし禁止表示を行い、各作業においても安全対策を念頭において改善をしています。指差確認も定着し、安全意識の高揚を図るうえで大きな効果となりました。安全祈願祭をひとつの区切りとし、気持ちをひきしめています。

私達の班では、常に安全意識を持ち、創意工夫により、作業道具、作業方法についても改善を行い、より安全な作業が出来るよう心掛けています。また、全員が健康であることも大切なことです。健康管理については、定期検診、産業医の巡視等のほかTBMでその日の健康状態を確認しあい、定期的に血圧測定を行うなど、早期発見、早期治療を心掛け、お互いが注意しあって健康管理を行っています。

第4に「環境づくり」です。

明るく快適な環境を作るとこも、安全確保のひとつだと考え全員で工夫し、協力し合って快適な職場環境を作ることに努力してきました。

休憩小屋は、間伐木を利用し手作りで快適に過ごせるよう工夫し、安全当番は毎日、始業と終業時に清掃を行い常に整理整頓に心掛けています。整理整頓された快適な環境の中でTBMを行い、休憩時にはゆっくりくつろぎ十分疲れをとることが出来ました。

### 3. まとめ

担当区の仕事は、作業種が多く、作業場所の移動も多い中で安全に作業するため、今後も、次のことを実践継続していきます。

- (1) TBM等の充実を図り、十分な作業現地の把握及び効率的な作業計画、適切な要員配置を行う。
- (2) 全員が安全意識をもち、連携作業に心掛ける。
- (3) 快適で明るい職場環境づくりを行う。

以上、私達の作業班が今まで実行してきた安全に対する取り組みを発表しましたが、焼石担当

区の安全目標「目配り気配り怠らず、無災害記録を更新しよう」をスローガンに今後も、無災害が継続するよう全員で努力して行きたいと思います。

図1

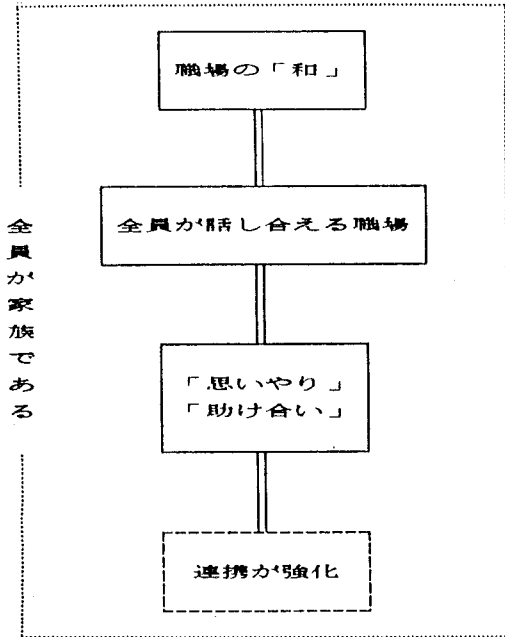


図2

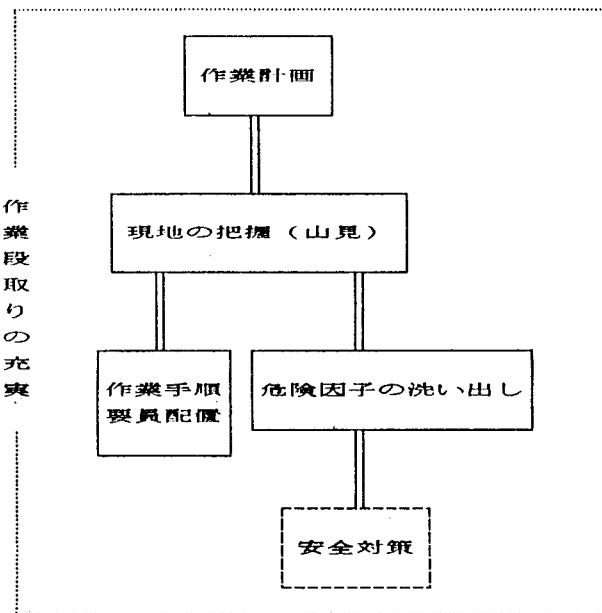
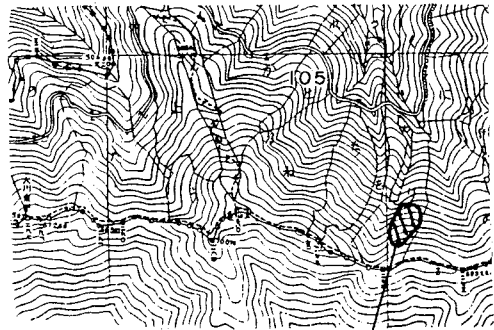


図3

危険因子洗い出し図



危険区域

